

Game Changer Project 2018 6/29 Springs



リタ・ファン・ドリエル
(オランダパラリンピック委員会事務局長)

ドルフ・ナイブルック
(コーボール指導者)

マヨライン・デ・ブーア
(スポーツコンサルタント)

オランダオリンピック委員会・スポーツ連合来日

“Game Changer Project”とは、オランダオリンピック委員会・スポーツ連合が、パラリンピック開催都市を対象にパラアスリートやコーチを定期的に派遣し、地域の課題解決を図る国際協力事業。この一環として6月29日に、区内3会場で行われたイベントの様子を報告する。



都立白鷺特別支援学校 授業視察



東京メディカル・スポーツ専門学校 特別授業



理学療法士科の学生が Game Changer 2!

今回、まずプロジェクトが目を付けたのが、理学療法士(P.T)を目指す学生たち。

近年になって我が国でもリハビリなどへのスポーツの導入が試みられているが、オランダでは従来からスポーツと医療の距離が近く、大きな効果を上げています。そこで、両分野をつなぐ職業の一つであるP.Tを目指す若者を Game Changer (物事の流れを変える人)にすべく企画されたのが、東京メディカル・スポーツ専門学校(西葛西)での特別授業だ。

授業の序盤、講師を務めたリタさんとマヨラインさんはオランダでの実例を挙げながら、リハビリへのスポーツの導入の必要性と、P.Tの果たす役割を熱弁。

二人の熱意に応えるように、続くグループ討議では学生らも身を乗り出し、身振り手振りを交えての白熱した議論を繰り広げた。

受講後のアンケートでは、「理学療法分野へのスポーツの導入の是非」について、全ての学生が「これまであまり必要性を感じていなかったが、積極的に導入すべき」と考えが変わった」と回答。約3時間の授業が、学生らに Game Changer になりました。

特別支援学校の生徒も大興奮!

午後になってプロジェクト一行が訪れたのは、知的障害のある高校生が学ぶ白鷺特別支援学校。

体育の授業に参加して、教員にアドバイスをすることが来訪の主目的だったが、教員以上に刺激を受けたのは、生徒たちだった。ゲスト講師の3人と一緒にラジオ体操やボールを使った身体づくりを行い、うまくできるとハイタッチをして喜び合う。会場では終始、笑顔が消えなかった。

一行から同校職員に向けては、既存のプログラムが体系的立って行われており効果的であること、生徒1人あたりの教員配置人数が手厚いことなど、好意的な評価が助言とともに伝えられていた。

コーフボール初体験!

同日夜、スポーツセンターに集まった障害者スポーツ指導員を対象にドルフさんが伝道を試みたのは、オランダ発祥のコーフボールだ。日本ではまだ知名度の低いこのスポーツは、いわばドリブルのないバスケットボール。平易なルールと接触プレーのない安全さからオランダでは発案から100年余りを経た今日、



障害者スポーツ指導員講習会

知的障害者の間でも広く親しまれている。実践形式でコーフボールを学んだ指導員たちは、区内での障害者スポーツのさらなる展開に向けた新たな足がかりを得たようであった。

【担当者の一言】今回、オランダの皆さんと8時〜21時半まで13時間以上も一緒に過ごし、彼らのパラスポーツに対する情熱、障害者への思いなどを体感することが叶いました。結びに、彼らが繰り返し訴えていた言葉(創造しよう!)を。"Be Creative!"



Game Changer
次回来日予告
2018年10~11月
Coming Soon...